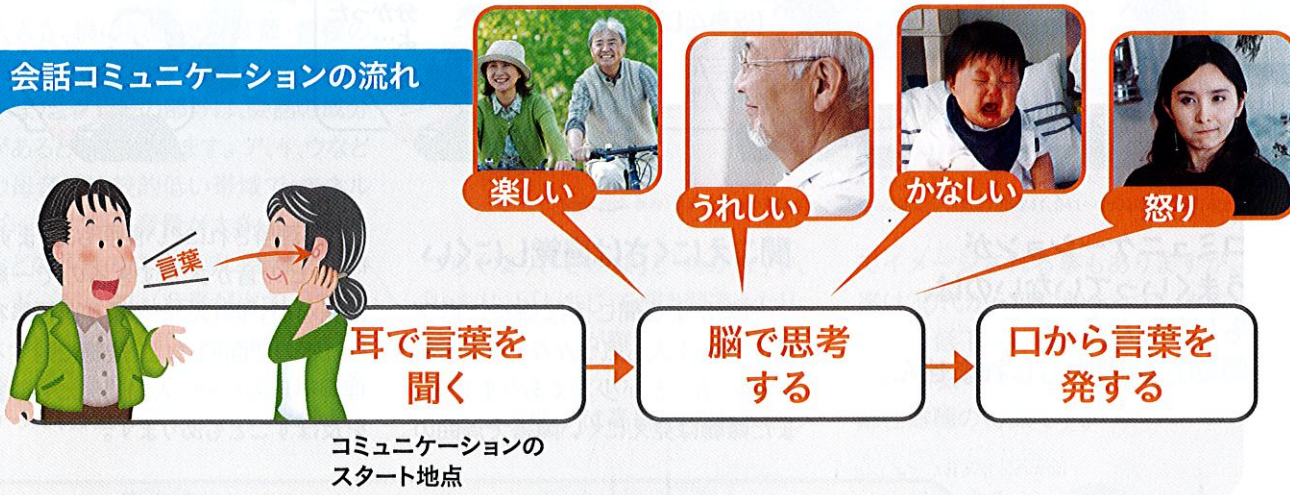


聴覚情報は様々な情動を引き起こす 非常に大事なものです。



会話コミュニケーションは、耳に言葉が入ることから始まります。耳で言葉を聞いて、脳で思考し、言葉で返す、というのが会話をするときの処理プロセスです。つまり聴覚は、思考をするための大事な情報源であり、この聴覚によって、「楽しい」「うれしい」などの情動を引き起こします。したがって聴覚は、コミュニケーションをする上でとても大事なのです。

会話コミュニケーションの流れ



ちょっと一息 Column

「研究で明らかにされた難聴と認知機能低下の関係性」

聴力の低下は認知機能の低下に関連するということは、さまざまな研究でも示されています。

例えば、1年の加齢による認知機能の低下を比較したアメリカでの研究によると、健康な人の認知機能テストのスコアは0.5減だったのに対して、25デシベルの難聴をもつ人のスコアは3.86

減でした。これは、健康な人の約7年分の加齢に伴う認知機能低下が、難聴者には約1年で起こりうるということになります。

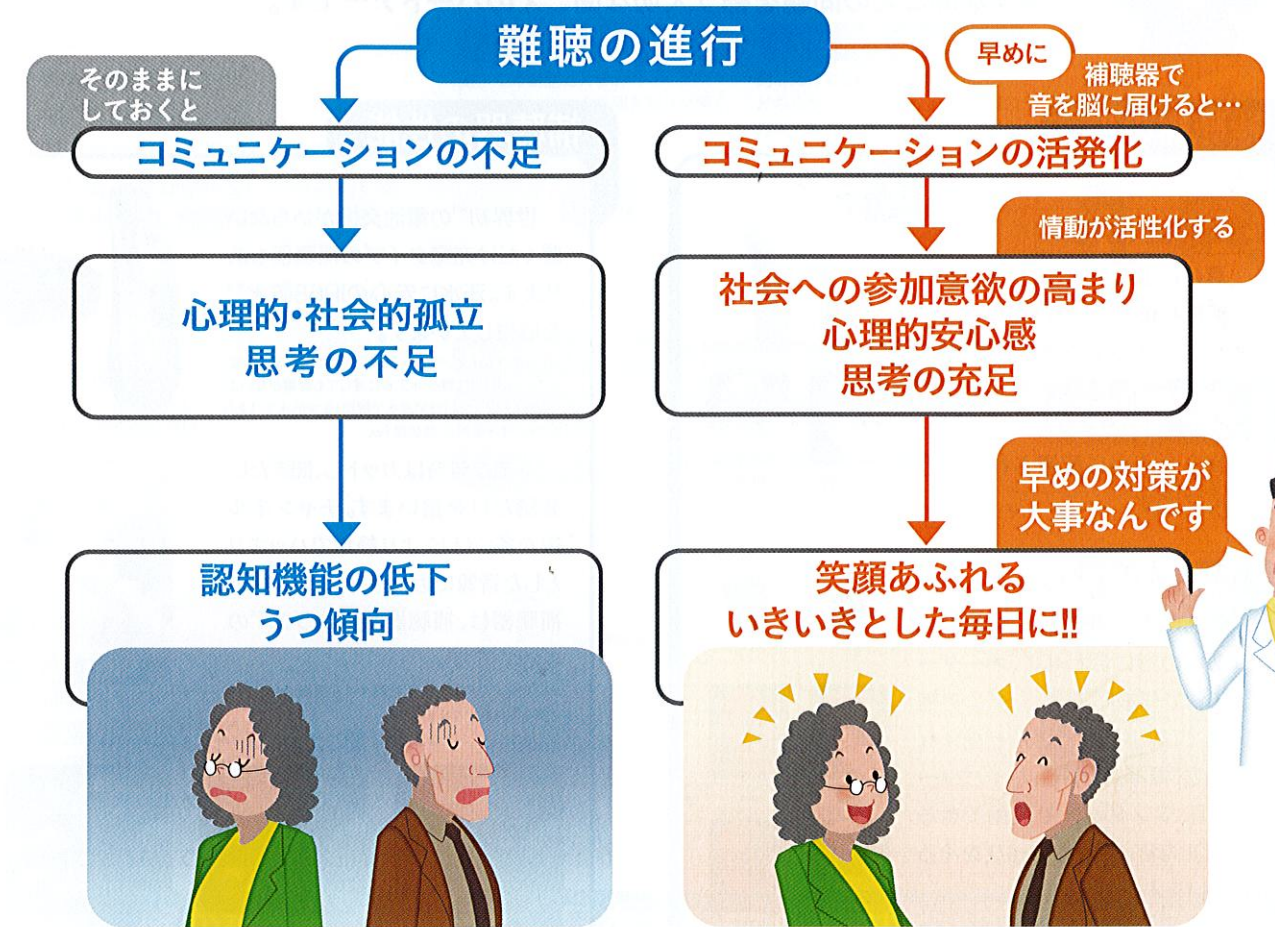
難聴が認知症の発症要因の一つである事は、国内外問わず多くの研究機関からも注目を集めています。

出典: Lin FR: Journal of Gerontology, 2011
National Health and Nutritional Examination Survey (NHANES)

補聴器を使うことで 脳に音を届けましょう。



難聴の進行をそのままにしておくと、コミュニケーションが不足し、孤立が進み、最終的には認知機能の低下やうつを発症するリスクが高まります。早めに補聴器を使うことで脳に音を届けましょう。



※難聴を放置すると必ずしも認知症を発症するわけではありません。 ※補聴器で必ずしも認知症が予防できるわけではありません。 ※聞こえの詳細な検査は、耳鼻咽喉科専門医を受診してください。